

第8回 善通寺市学校等再編整備討委員会 概要

1. 日 時 令和7年6月16日(月) 午後7時～午後8時31分
場 所 善通寺市役所4階 401～403会議室

2. 出席委員

片山 昭彦	委員	高畑 智	委員
畑田 裕康	委員	米村 徹	委員
大林 勇太	委員	横田 飛真	委員
西川 真有	委員	宮武 有奈	委員
徳山 恵	委員	田嶋 三枝	委員
町田 由紀	委員	山本 幾代	委員
井内 礼子	委員	大西 英和	委員
森江 清文	委員	田中 康隆	委員
松村 早記	委員	草薙 めぐみ	委員
高畑 光宏	委員		

3. 市側出席者

保健福祉部長 山西 留美 教育部長 尾松 幸夫
子ども課
課長 香川 勝応 課長補佐 高橋 友美 主事 宮地 雄貴
学校再編対策課
課長 山地 匠 課長補佐 内田 貴史 課長補佐 林 健一郎
教育総務課
課長 高畑 往立

4. 議 事

グループワーク 1回目 子どもの減少と公立私立の影響

グループワーク 2回目 子ども園配置のメリット・デメリット
全体会議

5. 概 要

〔事務局〕

本日は、昼間のお仕事等でお疲れのところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、第8回の学校等再編整備検討委員会を開会します。

片山会長、進行の方をよろしくお願いします。

〔会長／議長〕

皆さん、こんばんは。本日もよろしくお願いします。

それでは、早速ですが、本日の議事に入ります。

今回は、ご案内のとおり、前回に引き続きグループワークを取り入れていこうと思います。グループワークの時間は非公開としますので、忖度のない本音の意見交換をしていただきますよう、よろしくお願いします。

まず、本日の進め方と、資料についての説明を、事務局からお願いします。

〔事務局〕

それでは、本日の進め方を説明いたします。

前回と同じく、今回もグループワークを2回していきたいと思います。ただ、今回は途中のメンバー替えは行いませんので、席はこのままの状態でグループワークをしていただきます。

1回目のグループワークでは、お手元の資料にありますように、公立と私立の園児数のバランスについて、2回目のグループワークでは、後ほど資料をお配りしますが、3園案・2園その他案についてのメリット・デメリットについて議論していただきます。

議論ででた意見は、前回と同様、メンバーのどなたかに発表していただきますのでよろしくお願いします。職員の皆さんは、意見の記録をお願いします。

前回（第7回）のときに、今回で3園案、2園その他案のどちらにするか決をとるという話でしたが、まだ議論すべき重要なポイントが残されていたので、今回はその

議論を深め、次回、第9回で決定したいと思っていますのでご協力をお願いします。

では、1回目のグループワークの資料について説明させていただきます。

まず、園児数予測についてご説明します。

4月、5月の検討委員会で、こども園の数や規模を検討いただいたところですが、その資料に追加して2050年までの園児数予測を入れてみました。

3園案を採用した場合の園児数予測をご覧ください。

①案ですが、園児数予測の欄は公立私立ともに同じ減少率で減少させています。2025年の448人に0.9をかけたものが2030年の403人であり、それに0.94をかけたものが2040年の378人、そして0.86をかけたものが2040年の325人になります。この減少率は第3回の資料と同じく人口推計から求めたもので、私立も同様に計算しています。

そして、公立のABCのこども園の園児数をどうするかが、竜川現状考慮案と平準化案です。竜川現状考慮案では、Aこども園に竜川幼稚園と竜川保育所に通う園児が通えるように考えたものであり、2030年のAこども園は170人、Bこども園は中央、西部、南部の園児数を考慮し120人、Cこども園は東部、筆岡、吉原の園児数を考慮し120人とししました。2040年、2050年も同様です。平準化案は、ABCのこども園の園児数がだいたい等しくなるように考えたものです。

次に、②案（私立の園児数合計485人を維持する案）ですが、これは、私立の園児数を2025年の485人から変えずに公立だけ減少させたものです。公立の園児数予測は2030年が355人、2040年が304人、2050年が194人であり、これを竜川現状考慮案、平準化案によりABCのこども園に割り振っています。

③案は園児の減少率について、公立を私立よりも大きくしたものであり、①案と②案の中間のような案になります。公立私立ともに園児を減少させていますが、公立の方を大きく減少させています。ただ、この減少率は何かに基づいているわけではなく、単に減少率に差をつけたひとつの例として捉えてください。

次に、2園その他案を採用した場合の園児数予測をご覧ください。

④案では、公立私立ともに同じ減少率で減少させながら、約50人の園児について公立を減らし、私立に協力をいただく案であり、2030年の公立の園児数が355人、2040

年が 328 人、2050 年が 275 人となっています。この園児数を竜川現状考慮案と平準化案でそれぞれ 2 園に割り振るのですが、結果的に同じ数になっています。

⑤案（私立の園児数合計 485 人を維持する案）ですが、私立の園児数を 485 人から変えずに公立だけ減らしたのですが、竜川現状考慮案と平準化案では 2050 年に違いがあります。

⑥案、園児の減少率について、公立を私立よりも大きくしたものの場合は、公立と私立の減少率によって変わると思いますが、この例では、竜川現状考慮案と平準化案に大きな差はありません。

この 2 枚の資料は、子どもの減少が公立・私立でどのように影響するのかを考えて作成していますので、

- ・子どもの減少率について、公立、私立で同じようにするのか？
- ・私立はそのままの規模として、公立のみ減らすのか？
- ・公立と私立で率を調整するのか？その率はどの程度が適切か？

ということをグループワークで話し合ってください。

グループワークは 19 時 20 分頃までとし、グループのどなたかに発表をお願いします。書記は市の職員がするとして、発表者を決めていただき、グループワークを始めてください。

～グループワーク 1 回目／非公開～

〔事務局〕

それでは、グループごとに発表をお願いします。

〔グループ①〕

まず、私立の適切な規模とはどの程度なのか、どれだけ受け入れられるのかが分からないと決められない、という意見がでました。

ある程度私立に配慮し経営を圧迫しないようにすべきという意見もでました。

最終的に、③案が一番妥当ではないかという意見にまとまりました。

〔グループ②〕

公立と私立のいいところを活かしながら、これからも続けていくことができ、また競争していくためには、人数だけではなく立地の場所も大事な要件になるのではないかと、という意見がでました。

あまりにも近いところに建設してしまうと、お互いに影響が大きく、いいこともあるかもしれないが、悪いこともあるのではないかとということで、設置する場所についても今後重要になってくるだろうという意見がでました。

また、今後も公立と私立が共存していくためには、定員について同じような割合で減らしていくのが良いのではないかとという意見もでました。

案のうち何番がいいかというところまで至ってはならず、設置場所が大事だということころまで話が進みました。

〔グループ③〕

何番の案がいいという結論には至りませんでした。

色々な意見がでる中で②案と⑤案はないかなという意見や、選ぶのは保護者なので、そもそも定員を決めてしまうこと自体がどうなのか、という意見がでました。

全国的な傾向をみても、公立よりも私立のこども園を選ぶ傾向があること、また、善通寺市の地域性というか、公立の幼稚園が8箇所あって私立の幼稚園が1箇所しかないという状況の中で、努力をし子どもに対しても保護者に対してもきちんとサポートしてくれるような園が保護者に選ばれるのではないかと、という意見がでました。

〔グループ④〕

結論から言うと、③案か⑥案がいいのではないかとという意見と、竜川現状考慮がいいのではないかとという意見になりました。

竜川に住みながら違う校区の新たなこども園に通うよりも、そのまま竜川で通うことができる方がいいのではないかとということで、③案か⑥案の竜川考慮案がいいという結論になりました。

また、予測よりも子どもがもっと減っていく可能性も考慮しないといけないのではないかとという意見や、私立の経営の損益分岐点が分からないと十分議論できないのではないかとという意見がでました。

さらに、竜川の規模がかなり大きく先生の負担が大きくなるから、負担も公平にして

ほしいという意見もでした。

〔グループ⑤〕

結論としては、⑥案になりました。私立の園児数の減少を考慮すべきということです。

③案も良いのではないかという意見がでた一方で、2050年のBのこども園が80名ということで、全体の数としてみると80名は少なくないように思えますが、クラスで考えるとどうなのかという意見もでした。

②案と⑤案について、2050年のBこども園は30人になっており、大きな建物をつくって2050年に30人というのは現実的ではないのではないかという意見ができました。

〔議長〕

色々な意見をだしていただきありがとうございます。

案としては、①案から⑥案までありますが、結局のところ①案もしくは④案、②案もしくは⑤案、③案もしくは⑥案ということで、まずは減少率をどちらに設定するかということを決めていきたいと思います。

グループの意見にもありましたが、私立がどのくらいの人数を受け入れることができるのかということが分からないと、公立の施設をどの規模にすればよいか分からないということになります。当然、どの園を選ぶかということは保護者の方が決めていただくということにはなりますが、公立私立とも、どれくらいの人数を受け入れるのかということを決めなければいけないのはご理解いただきたいと思います。

そこで、皆さんからの意見としてでてきたものの多くが③案か⑥案で、これは、減少率について公立が多めで私立は少なめということになります。

しかしながら、ここで疑問があるのが、485人というのが私立にとって本当に適切な数なのかどうなのかということです。園児数をもって損益分岐という表現を用いることが適切かどうかの議論は置かせていただき、それぞれの園の経営上、最適な人数は何人なのかということをして市は把握されていますか？

〔事務局〕

利用定員については、毎年、子ども子育て支援会議において、私立を含めて決めていますので、そのあたりは市も把握しています。

〔議長〕

私立の園について、定員いっぱい園児を受け入れていますか？

〔委員A〕

定員は割れています。

定員を下げたいと思っている私立施設はあるかもしれません。

私立がどれだけ受け入れられるのかということになると、それぞれの施設の将来的な事業計画もあるでしょうし、私立の園長や経営者が話し合う場があればいいと思います。

また、子どもの数の問題のほかに働き手の確保の問題もあります。受け入れたいと思っても働き手の数が足りていなければ受け入れられないということになりますので、そのあたりをそれぞれの私立施設がどう考えているのかは分かりませんので、一度、回答してもらおうというのはどうでしょう？

〔議長〕

485人という数字は仮に算出しているものの、実際の私立施設が受け入れたい人数ではない可能性もあるということでしょうか？

〔委員A〕

そうです。

〔委員B〕

4月の時点では、どの園も定員割れしていることが多いと思いますが、それは年度途中で入ってくる、保護者が職場復帰するタイミングで入園してくる子どもがたくさんいるからです。うちの施設では、3月末の時点では定員いっぱいになるよう年間を通して計画しています。

ただ、A委員さんがおっしゃったように職員の数というのが重要になるのと、職員も産休や育休に入ることがありますので、そういった関係で受け入れられる人数が変わってくるということはありません。

〔議長〕

485人という数をどうみるかということが非常に重要になってきました。各園で意見交換をしていただいて、うちの園はどのくらいの人数が適切といった内容を整理していただくことは可能でしょうか？そのような数を市として把握していただき、その数値

を参考にして、減少率を③案などで考慮すると、公立のこども園の適正な規模というのが捉えられると思うのですが、事務局いかがですか？

〔事務局〕

各私立の幼稚園・保育所・こども園のご意見を伺い、そのような数値をまとめることは可能です。

〔議長〕

その際、できるだけ公平に進めてもらった方がいいと思いますので、一度全員に集ってもらい、趣旨をきちんと説明して、各施設の将来設計も勘案しながら適正な数値を把握していただきたいです。

〔委員A〕

何を求めるかによって異なると思いますが、過去3年間の充足率をだしてもらうとともに、今後5年・10年先の人口減少を見越し、それぞれの施設がどのように考えているのかということをヒアリングできると一番分かりやすいと思います。

〔事務局〕

そのあたりを踏まえ、各私立施設で考えていらっしゃる適正規模というものを伺うようにします。

〔議長〕

それでは、485人という試算値をより具体的なものにするために、各私立施設に対し、過去3年間の状況や今後の計画などを踏まえた適正規模についてヒアリングし、その結果を事務局にまとめていただいた時点で公立の適正規模が決まる、ということになります。

また、さきほどのグループワークの結果、公立と私立の減少率を同率にするのが良いという意見もあったかと思いますが、その辺りを踏まえながらも、減少率については、メインを③案もしくは⑥案の公立の減少率が多め私立の減少率が少なめで進めるということでしょうか？

〔委員：異議なし〕

〔議長〕

それでは、減少率については③案もしくは⑥案の減少率をメインに進めていくということですのでよろしくお願いします。

〔事務局〕

1 回目のグループワークは、以上となります。

2 回目のグループワークの資料をお配りします。

それでは、2 回目のグループワークについて、説明いたします。

資料が大変多いですが、基本は、前回の検討委員会で要望をいただいた、3 園案と 2 園その他案の 2 つの案についてのメリット・デメリットをベースとして作成しています。ただし、ベースはその 2 種類の案ですが、そこから派生した案や、最初のグループワークでも議論していただいたように、公立と私立の園児数の考え方によっても変わってきますので、その点について資料を別にしています。

具体的に言いますと、2 園その他案においては、2 園目の配置について、どこにするかはあまり議論されていないと思いますので、2 園目を中央地区付近に配置する案と、筆岡・東部地区付近に配置する案の 2 通りを用意しています。

また、最初のグループワークの説明にもありましたが、A こども園の規模について、竜川の現状考慮案と平準化案についても議論の余地がありますので、各案の中に、その 2 つのパターンを将来の園児数を含めて表示しています。

さらに、これも最初のグループワークでもありましたが、私立の園児数を、現状 2025 年の園児数 485 人で維持していく場合の案、それと、私立の園児数の減少率を少しおさえた場合の案も、別々に作成しています。

その他、建設費の比較表、木造こども園のメリット・デメリットの資料もつけていますので、建設費の目安として参考にしていただけたらと思います。

情報量が非常に多く、見にくいとは思いますが、表示している園児数は、グループワーク 1 回目の資料と同じで、配置図右上の資料番号と、グループワーク 1 回目の表の番号は一致していますので、見比べる場合は参考にしてください。

お示しした資料は、あくまで比較するための資料ですので、この数値にあまりとらわれてしまうと柔軟な考えがでなくなってしまうと思います。

例えば、A こども園の規模にしても、こども園建設当初（2030 年）は、竜川の現状を

考慮し、現在竜川幼稚園と竜川保育所に通う子ども達を受け入れられるだけの規模を用意して、その後時間をかけて定員を少しずつ調整していけば、平準化案に近づけることも可能ではないか、という考え方もできますので、将来的に必ずこの資料のようになるのではないということも頭の隅に置いておいていただければと思います。

〔議長〕

さきほど、減少率については③案と⑥案のどちらかでということになりましたので、少し乱暴な進め方かもしれませんが、それ以外の案に対応する資料を省いて、グループワークの2回目を進めたいと思いますが、いかがですか？

〔委員：異論なし〕

〔事務局〕

それでは、お手元の資料を③案と⑥案にさせていただき、メリットとデメリットについてグループワークをお願いします。

今、19時55分ですので、時間が短くて申し訳ありませんが、20時10分にはグループワーク2回目を終了し、全体会議に移りたいと考えていますのでよろしくお願いします。

～グループワーク2回目／非公開～

〔議長〕

それでは、全体での議論をしていきます。

グループごとに、2園その他案と3園案のメリット・デメリットについて、事務局が作成した資料のうちどれを推すのか、また、事務局の資料にはないメリット・デメリットがあればその旨を説明してください。

また、2園その他案と3園案のどちらがいいという結論がでていようであれば、それも発表してください。

今日の意見を事務局でまとめていただき、次回の会議において、2園その他案と3園案について本会の意見をまとめたいと思います。

それでは、1番目のグループから発表をお願いします。

〔グループ①〕

3園案の方が、バランスがよいという意見がでました。

また、選ぶのは保護者なので、家や職場に近い方を選ぶことができるよう選択肢が多い方がよいのではないかという意見がでました。

〔グループ②〕

3園案のメリットについて、送迎などで選択肢が増えることになり便利になるだろうという意見がでました。デメリットについては、順番に建設する中で、候補地が正確に決まっていない地区もあるので、用地の取得が進まないというようなことがあると、計画に支障がでる可能性があるという意見がでました。

また、その他のデメリットとして、中央地区などは私立施設が近隣にあるので、私立施設の近くに公立施設を造ると経営を圧迫するのではないかという意見もありました。

2園その他案のメリットについては、建設費用がおさえられること、デメリットについては、送迎などにおいて選択肢がせばまるという意見がありました。

〔グループ③〕

はっきりとした結論はでていませんが、将来的に負担しなければならない金額面を踏まえて考えると、3園案は厳しいのではないかという意見がでました。

他に、新たな公立のこども園ができた後、私立の教育方針などに魅力を感じて私立に行くのか、新しい施設に魅力を感じて公立に行くのかなど、保護者の流れを見るために、試しに1園造ってみて、その結果によりその後の建設数を決めてみるのはどうか、という意見もでました。

また、コンパクトシティという観点からは、中央地区（丸山）はいいと思うものの、私立施設と近いので場所についてはもう少し考えないといけないのではないかという意見もでました。

〔グループ④〕

2園その他案のメリットとして、建設費とランニングコストがおさえられることが大きいと考えます。

木造案については、耐震性などのデメリットがあること、また、保護者の方にとって、木造のこども園という選択肢があることが逆に好ましくない状況を生むかもしれない

という意見がでました。

また、建設費について、国・県・市の負担割合を知りたいという意見もでました。

場所に関しては、筆岡幼稚園や筆岡小学校あたりの案がいいのではないかと意見がでました。これは、私立施設が中央地区に集中しているので、バランスをとる意味で筆岡地区はいいのではないかとことです。ただ、用地確保の問題や、小学校の再編も関連してくるので、こども園だけで考えて決定していいのか迷うところもあります。

〔グループ⑤〕

3園案の方が送迎のメリットはあるが、将来的な人数減のことを考えると厳しいかもしれないという意見がでました。

また、2園その他案だと2030年の園児数を考えたとき、170～180人規模の大きな園になってしまうので、3園案の1園を木造にし、2050年頃の児童数の減少が予想通りなら木造の1園を廃園する方法もあるのではないかと意見もでました。

場所的なことでは、2園その他案で竜川地区とどこかということであれば、中央地区がよいのではないかと意見がでました。

〔会長〕

ありがとうございます。

グループの発表を聞くと、3園案を推す意見と2園その他案を推す意見が、ほぼ半々のようなようです。

また、場所的な話としては、小学校の場所によるという意見もでてきましたが、園の数を決めるのと併せて場所についても決めておくのか、それとも、小学校と合わせて考えるのか、事務局はそのあたりどうですか？

〔事務局〕

最終的には、規模と場所をセットでということになると思いますが、検討委員会において小中学校の再編をこの後に検討していただくので、現状において規模と場所の案をだしておいて、小中学校の再編の議論が進む中で案が修正されるということも考えられなくはないと思います。

また、人口減少の影響をいち早く受ける就学前児童の施設ということから、早い段階でまず竜川地区のこども園についてはこの規模でということを決めて進めるやり方も

ありますので、検討委員会の中で結論がでるようであればそれでいいかと思います。

〔議長〕

さきほどの発表のなかで、3園案にしておいて、将来的な児童数の減少に対応して2園に減少していく考え方を示されているグループがありましたが、その点についてもう少し具体的な意見があるようであれば教えてください。

〔委員 C〕

児童数の減少を考えると、将来的には2園が妥当かと思いますが、1園を木造にしておいて25年後くらいに1園を除却するという前提であれば、3園案もありかなという少し変則的な考え方です。

〔議長〕

3園案から2園案にシフトするような案ですね。ありがとうございます。

ここで、各グループからの補足や、次回この点を重点的に議論してほしいという要望はありますか？個人的な意見でもかまいません。

〔委員 D〕

在り方検討委員会からの提言においては、小学校とこども園の数を揃えるという内容だったと思いますが、それには従った方がいいのでしょうか。

〔事務局〕

あくまでもベースですので、それを基本に考えていただくもので、無理に合わせなければならぬわけではありません。

〔議長〕

今回は、各グループからでた意見をまとめた資料と、事務局による私立施設のヒアリング結果をもとに、2園その他案と3園案について、地図を広げながらこのあたりはどうかという議論をしたいと思います。

回りの会議の方法、グループワークにするかどうかについては、事務局と検討させていただきます。

最後に、何かご質問などありますか？

〔委員 E〕

2園または3園の建築時期は、同時ですか、計画的に順番をつけて建設しますか？

〔事務局〕

建設費の問題などを考慮すると、3園を同時に建設するのは厳しいと思います。ただ、各園を平準化するとなると、竜川を先行して1園建設するだけでは足りませんので、同時にもう1園建設しないとないといけない可能性はあります。

〔委員 F〕

2園その他案と3園案について、建設スケジュールみたいなのをだしてもらうことは可能ですか？

〔事務局〕

スケジュールを申し上げることは難しいのですが、1園目を建てることが決まり、仮に竜川に建設するとすれば用地がありますので、基本設計・実施設計をつくるのに2年、建設に1年かそれ以上、全部で3～4年必要かと考えています。

建設期間が重複する可能性はありますが、1園あたり3～4年かかるということで考えていただければ、大まかなスケジュール感は想像していただけるかと思います。

〔議長〕

他にご意見などはないようですので、これにて終了します。

次回、7月14日の月曜日、同時刻で予定していますので、よろしくお願いします。

20時31分 終了